
令和7年度（第73期） 事業報告

公益財団法人 京都健康管理研究会

自 令和 7年 4月 1日
至 令和 8年 3月 31日

わが国においては高齢化が進み健康寿命の延伸が重要な課題となるなか、予防・診断・治療に加え罹患しても日常生活にできるだけ制限を受けずに生活していくという「疾病との共生」に向けた取り組みが求められている。一方、医学研究分野や最新医療分野の高度分業化、医師を含む研究・医療従事者の高齢化等により医療機関は慢性的な人材不足が続いている。難病についても、正しい知識を持った医療従事者による適切な医療の提供が必要であるが、研究対象となる病気の数も徐々に増加しており、希少な疾病であるため、どこへ行っても診断がつかない、治療経験のある医師が見つからない等、難病をはじめとする難治性の疾患を対象とする専門の研究分野を志す医師等の人材確保が困難になっている。また、医療分野の研究開発および人材育成面においては、安定的・持続的に教育研究活動を行っていくために必要な基盤的経費である国立大学法人運営費交付金等の減少などもあり、難治性の疾患に限らず若手研究者や医師等が自由に研究あるいは自己研鑽する機会や海外において見聞を広げる機会が減っている。

公益財団法人京都健康管理研究会（以下、本財団とする）は、呼吸器系難治性疾患の研究に取り組み、特にサルコイドーシスおよび特発性間質性肺炎などの分野では大学病院にも引けを取らない専門性の高い重要な拠点として診療および研究実績を積み重ねてきた。令和2年度に診療・健診部門を一般財団法人大和松寿会に譲渡して以降も、残余の資産をもって、国民の健康保持、増進に寄与・貢献し「健康の輪」を広げることを目指し、難治性疾患や他の疾病に関する調査・研究の成果を広く社会に啓発・普及させるために医学・医療を中心とする学術分野に関する必要な情報提供を行うとともに、これらに係る人材育成および活動を助成する様々な取り組みを進めている。

令和7年度は、難病をはじめとする難治性疾患等の臨床研究に対し、微力ではあるが、研究の継続、発展の一助となるように、京都府内の大学等の研究機関や医療機関に所属する若

手研究者や医師等への研究費の助成をはじめとする研究・奨学助成事業に取り組むとともに、難病患者団体の活動費の助成や難治性疾患のみならず、その他の疾病に関する情報発信および難治性疾患の患者等の高齢化が進むなかで健康をみずから管理できるような情報発信、啓発に取り組んだ。

1. 難治性疾患等に関する医学情報の提供、それら疾患の理解とその対策の啓発・普及事業
疾患、特に難治性疾患に対する理解と、難治性疾患の患者等の高齢化による不健康な期間が長くなるリスクが高まるなか、「健康寿命の延伸」に向けた健康増進意識の醸成のため、啓発・普及活動を実施した。

(1) 一般市民健康講座の開催

よみうりカルチャー大阪との協賛で「市民健康講座：みんなで学ぶ健康学」を2回開催した(参加費無料)。

①令和7年4月12日 TKP 京都四条駅前カンファレンスセンター6階ホール

- ・講 師: 乾 賢一先生 (京都大学名誉教授、京都薬科大学元学長)
- ・演 題: 安心を処方する「高齢者への治療薬を考える」
- ・参加者: 92 名

②令和7年10月18日 池坊短期大学こころホール

- ・講 師: 荻野 俊平先生 (一般財団法人和松寿会中央診療所
脳神経内科・総合内科)
- ・演 題: パーキンソン病ってどんな病気?
「症状観察力と疾患リテラシーの向上を目指そう」
- ・参加者: 102 名

各回とも、参加者の募集にあたっては、よみうりカルチャー大阪が同社のWebサイトおよび読売新聞に開催案内を掲載、本財団は「健康塾通信」に開催案内を掲載するとともに開催チラシを配布し広く一般に案内した。また、参加者アンケートを実施し講座への評価および意見を収集した。アンケートでは満足・まずまず満足がそれぞれ83%、91%という評価を得ている。

(2) 医療関係者に対する啓発・普及のための講演会・勉強会等の開催

国民の健康保持、増進に寄与・貢献し「健康の輪」を広げることを目指し、他団体が開催するセミナーに講師を派遣しているが、令和7年度は講演依頼が無く実施しなかった。

(3) 啓発資料の季刊誌・冊子等の発行

ア. 「健康塾通信」(本財団広報誌)の発行

令和7年4月15日(通巻第29号)、令和7年7月15日(通巻第30号)、

令和7年10月15日(通巻第31号)、令和8年1月15日(通巻第32号)を刊行した。

なお、「健康塾通信」は京都府内医療機関および購読希望者に配布ならびに市民健康講座等で配布するとともに、本財団のWebサイトにバックナンバーを含め掲載した。

2. 難治性疾患の研究費等助成及び一般市民への医学・医療へ理解を求める啓発・普及活動への助成事業

(1) 研究・奨学助成事業

呼吸器系をはじめ、難治性疾患を対象とする研究分野を志す医師等の人材を確保することが困難となっており、専門性の高い人材の確保は急務となっている。そのため呼吸器系はもとより、各領域での難病をはじめとする難治性疾患という専門分野を志す研究者や医師等、若手人材の育成の一助となるよう、研究機関や臨床医療機関での研究費、学会等の運営費、また、海外留学費用や専門知識の習得あるいは意見交換等を目的とする海外で開催される国際学会等への参加費用の助成を進めた。

大学および大学病院、民間病院等約100先に募集案内および募集ポスターを配布、さらにWebサイトに募集案内を掲示するなど、令和7年度の研究・奨学助成については、申請を随時受け付ける「学会・講演会等の運営助成」を除き、令和6年9月1日から10月31日の期間に公募により応募者を募ったうえ、呼吸器系、循環器系等の幅広い分野の研究者等で構成する研究・奨学助成選考委員会の審議を経て決定した助成を実施した。

なお、令和8年度に実施する研究・奨学助成は、令和7年9月1日から10月31日の公募期間の応募者について、研究・奨学助成選考委員会(令和8年1月17日開催)の審議を経て、助成対象者を理事長が決定した。また、随時受付の「学会・講演会等の運営助成」および「海外開催の国際学会等への参加経費等助成」(令和8年度助成より随時受付に変更)の申請分については、研究・奨学助成選考委員会の審議を経て理事長が決定あるいは助成金額基準に基づき理事長が専決することとしている。

ア. 研究助成

京都府内の大学等の研究機関あるいは臨床研究および臨床に携わる医療機関の在籍者、ならびに他府県で同様の機関に在籍する京都府内在住者が行う難病指定疾患等の調査・臨床研究に1件100万円を上限に6件までを助成する「研究助成」については、公募期間に応募のあった21件について、研究・奨学助成選考委員会(令和7年1月18日開催)の審議を経て理事長が決定した次の各100万円、合計400万円の助成を行った。

①岩城 謙太郎(京都大学大学院医学研究科 肝胆膵・移植外科)

「脱細胞化技術を用いた移植可能な人工小腸の作製と臨床応用」

②住友 亮太(京都大学医学研究科 呼吸器外科)

「マウス胸膜播種モデルを用いた悪性胸膜中皮腫に対する腫瘍関連マクロファージ再分極治療の開発」

③花畑 佑輔(京都大学大学院医学研究科 肝胆膵・移植外科)

「脱細胞化胆管による胆管再生」

④小松 周平(京都府立医科大学消化器外科／京都第一赤十字病院消化器外科)

「分泌型癌抑制型マイクロRNAによる消化器癌の新規抗腫瘍免疫応答機構の解明と核酸治療法の開発」

イ. 海外留学助成

京都府内の大学等の研究機関あるいは臨床研究および臨床に携わる医療機関に所属する研究者・医師、または研究者を目指す大学院生、卒後研修機関の研修医等が、世界中から集まった多様な研究者との交流に加え異文化に交わるなかで刺激を受けながら難病指定疾患等に関連する臨床に係る研究等を行うための海外留学に1件120万円／年(2年間)を上限に2件までを助成する「海外留学助成」については、公募期間に応募のあった12件について、研究・奨学助成選考委員会(令和7年1月18日開催)の審議を経て理事長が決定した次の各120万円、合計240万円の助成を行った。

- ① 片山 勇輝(京都府立医科大学大学院医学研究科 呼吸器内科) 2年間
カナダ Princess Margaret Cancer Centre
「腫瘍微小環境を標的とした革新的肺がん分子標的治療法の開発」
- ② 本田 新太郎(京都大学大学院医学研究科 整形外科学講座) 2年間
カナダ トロント大学 クレンビル研究所
「自己組織化ペプチド材料とヒトiPS由来神経幹細胞が損傷脊髄に及ぼす影響の解明」

なお、令和6年度に助成した2件の海外留学助成の2年目分(各120万円、合計240万円)についても引き続き助成を実施した。

ウ. 海外開催の国際学会等への参加経費等助成

京都府内の大学等の研究機関あるいは臨床研究および臨床に携わる医療機関に所属する研究者・医師、または研究者を目指す大学院生、卒後研修機関の研修医等が、難病指定疾患等に関連する調査・臨床研究等のための研究情報収集や情報交換等、海外で異文化に触れ、見聞を広げるために海外で開催される国際学会等に参加する経費について1件25万円を上限に20件までを助成する「海外開催の国際学会等への参加経費等助成」については、公募期間に応募のあった5件および追加申請のあった14件について、研究・奨学助成選考委員会(令和7年1月18日開催)の審議を経て理事長が決定あるいは助成金額基準に基づき理事長が専決した次の各25万円、合計475万円の助成を行った。

- ① 山形 昂(京都大学iPS細胞研究所)
イタリア「Lung Development, Injury and Repair Gordon Research Conference」
- ② 増尾 優輝(京都大学大学院医学研究科 免疫細胞生物学)
アメリカ「米国臨床免疫学会学術集会」
- ③ 辻 英輝(京都大学医学部附属病院 免疫・膠原病内科)
スペイン「欧州リウマチ学会学術集会2025」
- ④ 辻坂 勇太(京都大学医学部附属病院 循環器内科)
アメリカ「アメリカ心臓協会2025学術集会」

- ⑤ 恒光 健史(京都大学大学院医学研究科 初期医療・救急医学)
ドイツ「集中治療に関する冬季講習会」
- ⑥ 金田 和久(京都大学大学院医学研究科 循環器内科学)
イタリア「欧州心臓予防学会2025」
- ⑦ 笹井(中嶋) 蘭(京都大学医学部附属病院 免疫・膠原病内科)
アメリカ「米国リウマチ学会学術集会2025」
- ⑧ 菱川 法和(京都府立医科大学大学院医学研究科 リハビリテーション医学)
モロッコ「第19回国際リハビリテーション医学会」
- ⑨ 荻田 祐司(京都第二赤十字病院 膠原病内科)
スペイン「欧州リウマチ学会学術集会2025」
- ⑩ 土生 裕(京都大学大学院医学研究科 社会疫学分野)
アメリカ「疫学研究会2025」
- ⑪ 境内 大和(京都大学大学院医学研究科 糖尿病・内分泌・栄養内科学)
オーストリア「第61回欧州糖尿病学会」
- ⑫ 小川 惇史(京都大学大学院医学研究科 内科学講座 臨床免疫学)
アメリカ「米国リウマチ学会年次集会2025」
- ⑬ 岡村 亮輔(京都大学医学部附属病院 消化管外科)
フランス「欧州大腸肛門病学会2025」
- ⑭ 藤田 覇留久(京都大学大学院医学研究科 消化管外科学)
フランス「第20回欧州大腸肛門病学会学術集会」
- ⑮ 西田 真衣子(京都第二赤十字病院 乳腺外科)
アメリカ「サンアントニオ乳癌シンポジウム2025」
- ⑯ 小西 聡史(京都大学iPS細胞研究所 臨床応用研究部門)
メキシコ「第4回肺発生及び
肺線維症における上皮間葉相互作用に関する会議」
- ⑰ 杉本 悠(京都大学医学部附属病院 初期診療・救急科)
ドイツ「集中治療に関する冬季講習会」
- ⑱ 矢田 真也(京都大学医学部附属病院 初期診療・救急科)
ドイツ「集中治療に関する冬季講習会」
- ⑲ 水野 良祐(京都大学大学院医学研究科 消化管外科学)
アメリカ「米国消化器内視鏡外科学会2026定期学術集会」

エ. 学会・講演会等の運営助成

難病指定疾患の解明等およびこれらの啓発活動を行うことを目的とする、京都府内の研究者またはグループが主催する学会(国際学会・国際会議・シンポジウムを含む)あるいは開催地が京都府内の学会・講演会の運営費について1件50万円を上限に6件までを助成

する「学会・講演会等の運営助成」については、申請のあった5件について、助成金額基準に基づき理事長が専決した次の助成、合計85万円を行った。

- ① 第33回日本 Cell Death 学会学術集会(25万円)
- ② 第164回びまん性肺疾患研究会(20万円)
- ③ 第126回日本医史学会総会・学術大会(10万円)
- ④ 第22回近畿サルコイドーシス／肉芽腫性疾患研究会(10万円)
- ⑤ 第165回びまん性肺疾患研究会(20万円)

(2) 難病患者団体活動助成事業

難病患者支援団体は概ね規模が小さく継続的な活動が難しいことから、患者はもとより広く一般市民も含め難病への理解を求めるための活動に対し助成を行った。

ア. 京都府内で開催される難病に関する講演会・勉強会への助成

難病患者団体活動助成として、京都府内で活動する難病患者団体等が行う啓発・普及活動について、その団体が行う事業の一環として行う講演会・勉強会・相談会や懇親会等、公益性があると思われる活動について助成を行った。

令和7年度については、特定非営利活動法人京都難病連および助成実績のある団体に募集案内および募集ポスターを配布、さらにWebサイトに募集案内を掲載するなど、公募により応募団体を募った。令和6年10月1日から11月30日の公募期間に応募のあった2件および追加申請のあった3件について、有識者で構成する難病患者団体活動助成選考委員会(令和7年1月9日および令和7年3月3日開催)を経て理事長が決定あるいは助成金額基準に基づき理事長が専決した次の助成、合計70.09万円を行った。

- ① 特定非営利活動法人京都難病支援パッション
「難病カフェパッション」開催費用(4.29万円)
- ② 京都わらび会(稀少難病者・児と家族の会)「難病カフェわらび」開催費用(12万円)
- ③ たんぽぽの会(パーキンソン病患者・家族会)
患者交流会(映画上映・トークセッション)開催費用(33.6万円)
- ④ 京都府網膜色素変性症協会 2026年新年交流会開催費用(2.3万円)
- ⑤ J-LAMの会 2026LAMフォーラムin京都開催費用(17.9万円)

なお、令和8年度に実施する難病患者団体活動助成は、令和7年10月1日から11月30日の公募期間の応募分について、難病患者団体活動助成選考委員会(令和8年1月8日開催)の審議を経て助成対象者を決定した。公募期間後についても受付を継続しており、追加申請分については、難病患者団体活動助成選考委員会の審議を経て理事長が決定あるいは助成金額基準に基づき理事長が専決することとしている。

3. 医療相談等事業

難治性疾患に関する専門的な知識を活用した医療相談事業、医療教育講習事業については、相談依頼、開催依頼がなかったことから実施しなかった。

4. 法人管理

(1) 広報活動

「健康寿命の延伸」に向けた健康増進意識の醸成ならびに助成事業等の本財団の活動を広く周知することおよび知名度向上による本財団への支援の拡大を目指し、Webサイト等の充実を図った。

ア. Webサイトの活用

本財団が取り組む助成事業の詳細や応募要項および市民健康講座の案内のほか、本財団が発行した「健康塾通信」などを掲載し、情報発信ツールとして活用するとともに事業成果の社会還元を進めた。

(2) 理事会の開催

①令和7年度第1回理事会(令和7年5月23日開催)

議案:・令和6年度(第72期)事業報告および決算報告承認の件

・理事選任の件

・令和6年度期定時評議員会開催の件

②令和7年度第2回理事会(令和7年6月14日開催)

議案:・代表理事選任の件

・業務執行理事(常務理事)選任の件

③令和7年度第3回理事会(令和7年11月21日開催)

議案:・公益充実資金取扱規程の制定及び諸規程改定の件

報告:・令和7年度事業実施状況(令和7年9月30日時点)及び
令和7年度決算着地予想

④令和7年度第4回理事会(令和8年3月6日開催)

議案:・令和8年度(第74期)事業計画および収支予算の件

・公益充実資金の目的外取崩しの件

・50万円を超える研究・奨学助成を行う件

(3) 評議員会の開催

①令和6年度期(第72期)定時評議員会(令和7年6月14日開催)

議案:・令和6年度(第72期)事業報告および決算報告承認の件

・理事選任の件

(4) 運営体制の充実を図るための取組

ア. 外部理事・監事への情報提供等

外部理事・監事が本財団の運営状況をチェックできるように理事会(令和7年度第3回理事会)を開催し、年度中間時点における事業進捗状況、収支状況、理事長等の業務執行状況等の情報提供を行った。

また、監査機能の強化を目指し、監事あて各理事会に先立ち事前に案件内容等の説明を実施した。

イ. 評議員への新公益法人制度の概要説明

定時評議員会において、評議員に対し新公益法人制度の趣旨・概要および本財団の対応を説明した。なお、外部理事・監事には、令和6年度第3回理事会(令和7年3月14日開催)において説明した。

ウ. 諸規程の制定・改定

新公益法人制度において新設された公益充実資金に係る「公益充実資金取扱規程」を制定するとともに、出納事務の適正化等経理規程の一部見直し等を令和7年度第3回理事会において実施した。

(令和7年度事業報告附属明細書)

令和7年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので、作成しない。

以 上